

#### 4 湿原を題材とした教育の実施状況に関する調査 調査結果

##### (1) 回収状況

調査票の回答があった校数は以下のとおりでした。

小学校 : 45校(回収率80%)

中学校 : 26校(回収率79%)

高等学校 : 6校(回収率46%)

大学・高専等 : 3校(回収率38%)

大学・高専等(道立特別支援学校、高等専門学校、公立専修学校、大学)

表1. 調査票回収件数

	釧路市	釧路町	鶴居村	弟子屈町	標茶町	道立	国立	公立・ 組合立
小学校	23	6	3	6	6		1	
中学校	13	4	2	2	5			
高校	1					5		
大学・ 高専等								3

## (2) 調査結果

### 2. 環境教育の実施状況について

2-1 貴校では環境教育を実施していますか。1つ選んで をつけてください。		
回答	選択肢	
	実施している	問2-2へ
	実施の意向があるが、現在のところ実施していない	問2-6へ
	実施の意向はない	

環境教育を実施していると回答した学校は半数以上で、特に小学校と中学校においては、8割近くの学校が実施しているとしており、多くの学校が環境教育に取り組んでいることがわかります。また、実施していないと回答した学校においても、後述の2-6によれば、総合的な学習の時間等で時間を設定していないものの、各教科にて関連性を持たせて実施していると回答した学校も多く、ほとんどの学校で何らかの取組を行っていることがわかります。

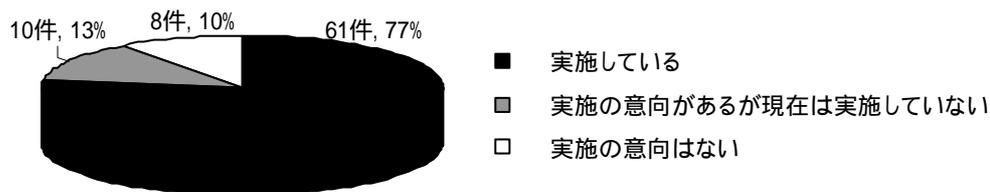


図1 . 環境教育の実施状況 (回答校全体 n=79)



図2 . 環境教育の実施状況 (小学校 n=44)

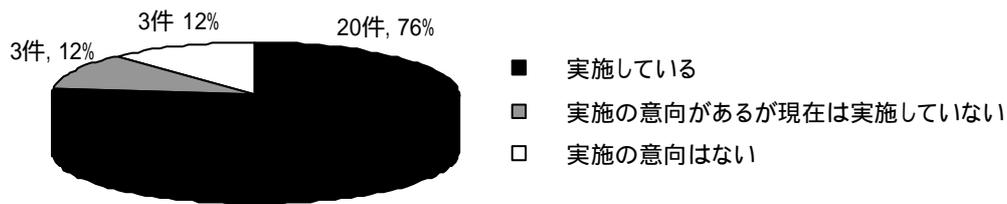


図3．環境教育の実施状況（中学校 n=26）



図4．環境教育の実施状況（高等学校 n=6）

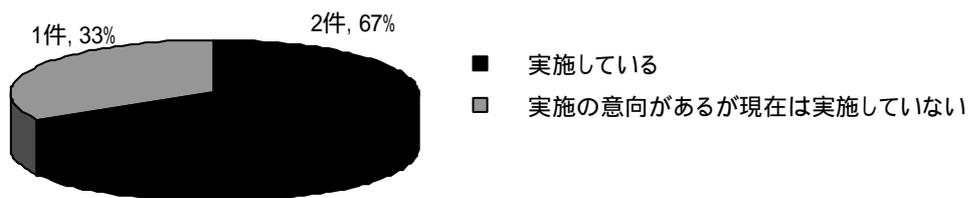


図5．環境教育の実施状況（大学・高専等 n=3）

2 - 2 の設問以降、道立高校については、「大学・高専等」のカテゴリー内に合わせて「高校・大学等」のカテゴリーとして行っています。

2 - 2 どのようなテーマで実施されていますか、当てはまるものを全て選んで をつけてください。	
回答	選択肢
	湿原を題材とする環境教育を実施
	湿原以外を題材とする環境教育を実施

問2 - 3へ

2 - 2 より 2 - 5 までの質問では、「環境教育を実施している」と回答した 61 校に対して回答を求めました。環境教育の選択課題としては、全体の傾向として、湿原以外を題材とする学校の割合が 8 割を超えているものの、約 3 割の学校では「湿原を題材とする環境教育を実施している」と回答しており、湿原を題材として扱う学校も多くあることがわかります。

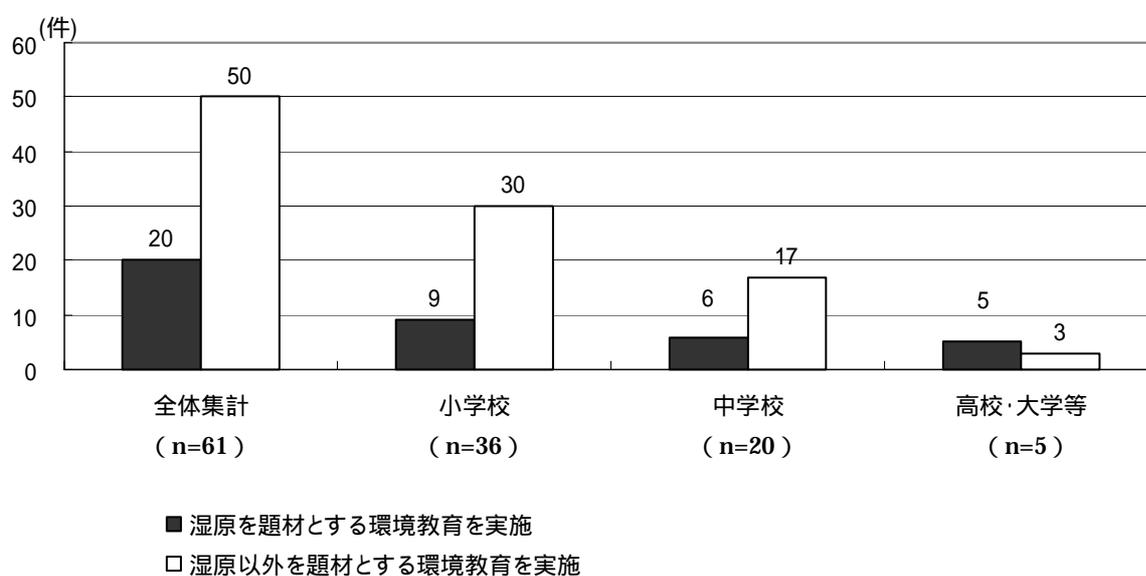


図 6 . 環境教育の実施テーマ

2 - 3 どのような時間に実施していますか。当てはまるものを全て選んで をつけてください。	
回答	選択肢
	総合的な学習の時間に実施している
	教科の中で実施している
	課外活動で実施している
	そのほか( )

**問2 - 4へ**

小学校及び中学校においては主に総合的な学習の時間を使って環境教育を実施していますが、高校や大学等では、教科内において環境教育を実施している学校が多くなっています。また、全体の傾向として、多くの学校が教科内で関連性を持たせながら環境教育を実施していることがわかります。

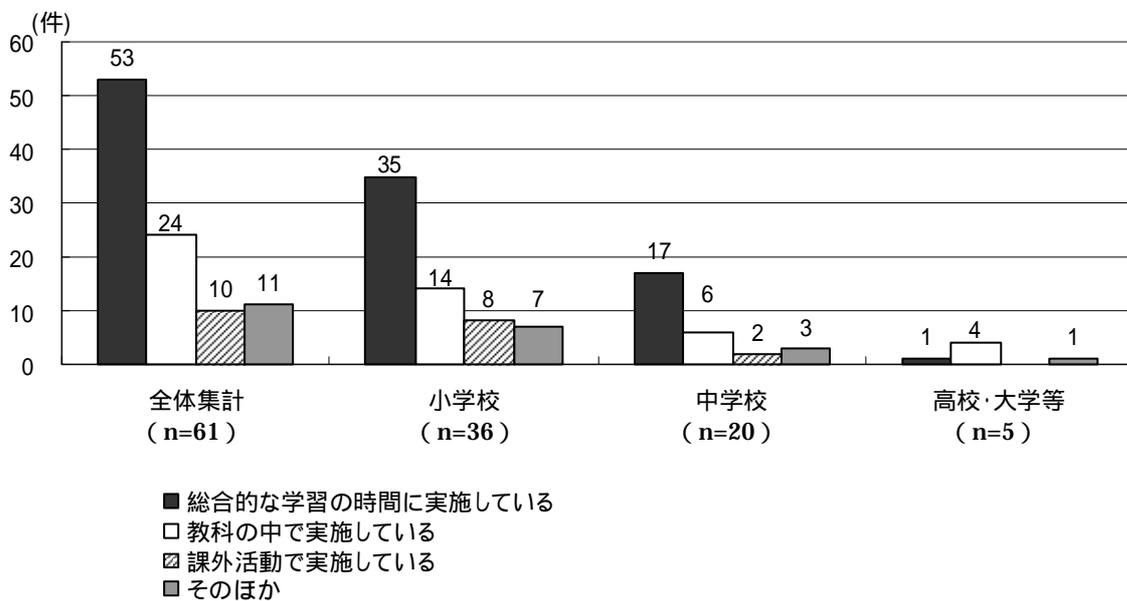


図7. 環境教育の実施時間

「そのほか」を選択した学校 11 校のうち、記入があったもの 9 校についての内訳

- 特別活動 [ 2 件 ]
- 特別活動 (クラブ活動) [ 1 件 ]
- 特別活動 (学校行事) [ 1 件 ]
- 特別活動 (児童会活動) [ 1 件 ]
- 特別活動 (生徒会活動) [ 1 件 ]
- 特別活動 (学校行事) PTA 活動、地域活動 [ 1 件 ]
- 釧路川水辺の楽校 (水辺活用プロジェクト) [ 1 件 ]
- 演習 [ 1 件 ]

2 - 4 対象学年、時間数等、可能な範囲で具体的な内容、成果、感想等をご記入ください。

回答(様式自由) これらが記載されている文書等の同封に代えていただいてもかまいません。

問2 - 5へ

自由記入欄の内容について、いくつかの項目に分類し集計を行い、自由記入の内容から読み取ることが可能な情報の範囲内において分析を行いました。

また、体系的に環境教育に取り組んでいる学校や湿原を題材として環境教育に取り組んでいる学校等については、内容を抜粋して後述しています。

### 対象学年

小学校においては、3年生以上の学年を対象として環境教育を行う学校が多くなっています。中学校においては、1年生を対象として環境教育を行う学校が多く、2、3年生においては実施している学校の割合は低くなってきています。

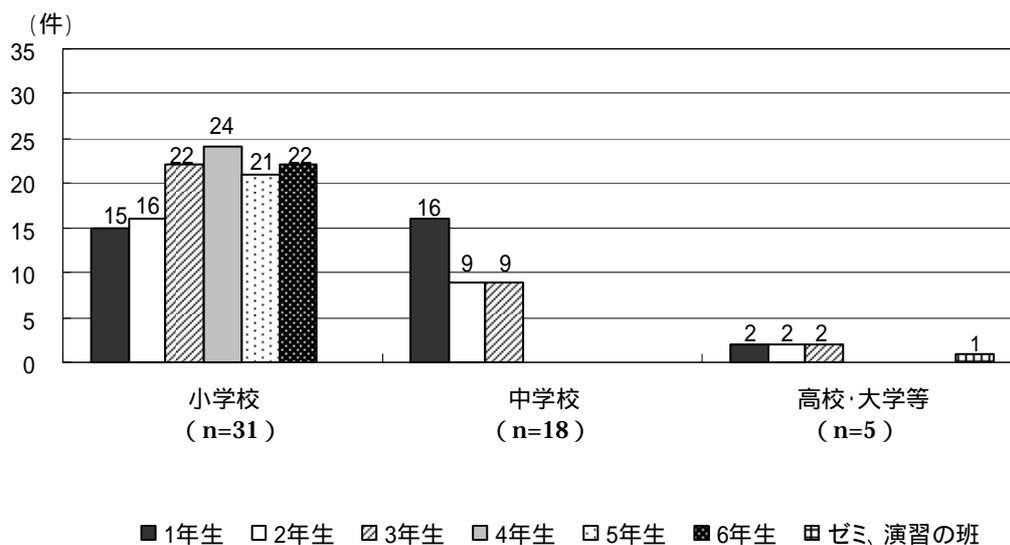


図8 . 環境教育対象学年

## 環境教育の実施にあてている時間数

実施時間数の記載がある小・中学校について、可能な範囲でとりまとめました（複数回答）。小学校においては、1～2学年と比較して3学年以上から多くの時間数をとって環境教育に取り組んでいる学校が多くなっており、中学校においては、他学年に比べて1学年で多くの時間数をとっている学校が多くなっています。

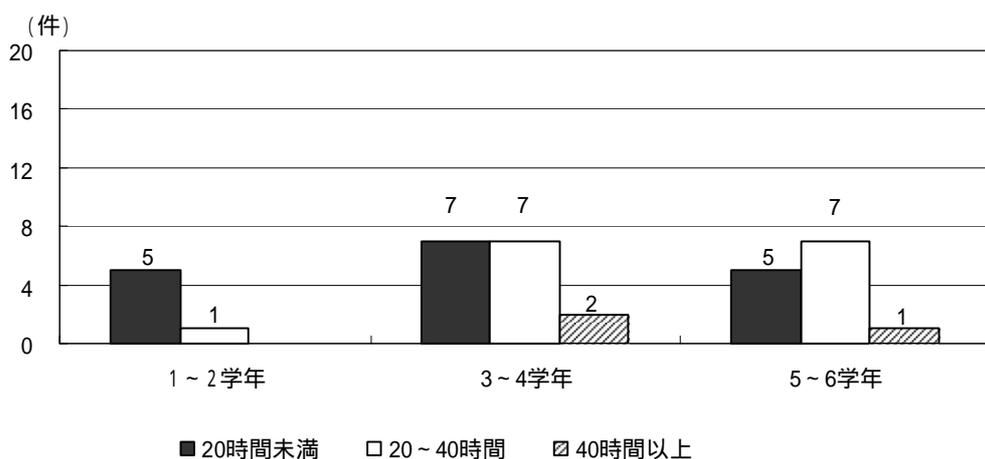


図9．各対象学年に対して環境教育にあてている時間数（小学校 n=19）

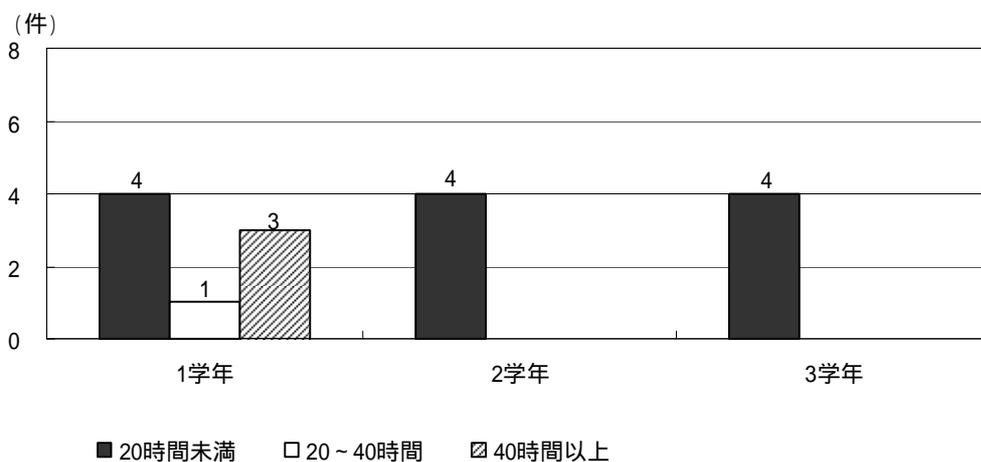


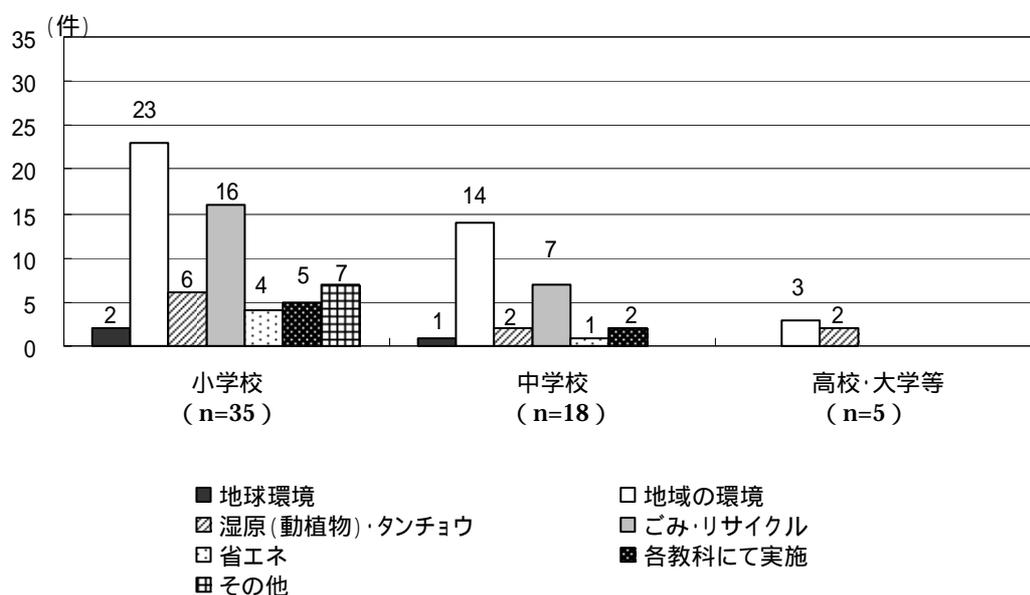
図10．各対象学年に対して環境教育にあてている時間数（中学校 n=8）

## 選択テーマ

各学校で選択しているテーマを6分野に分類して集計を行いました（複数回答）。

全体として、「地域の環境」をテーマとしている学校が最も多く、身近な自然環境に係る学習を中心とした体験学習や調べ学習を実施している学校が多くなっています。次いで、清掃活動への参加、リサイクル学習を中心とした「ごみ・リサイクル」をテーマとする学校が多くなっています。また、湿原に生息する動植物をテーマとして選択している学校も多く、これらの学校では、「地域の環境」の題材として湿原（生息する動植物を含む）を選択している学校が複数ありました。

なお、各学校で選択している題材は、多くの学校で複数の題材を適宜選択して実施していることがわかります。



### 各分類の内容

- ・地球環境：地球規模での環境を扱うもの（自然環境・社会環境を含む）
- ・地域の環境：市町村内及びその近郊、学校近郊の環境を扱うもの（自然環境・社会環境を含む）
- ・湿原（動植物）・タンチョウ：湿原に生育・生息する動植物を扱うもの
- ・ごみ・リサイクル：市町村や学校近郊、学校内でのごみ減量の活動、清掃活動、空き缶等の回収
- ・省エネ：学校 ISO の取り組み、節水、節電等を扱うもの
- ・各教科にて実施：教科内の各テーマと連携させて複数の課題を扱うもの
- ・そのほか：畑作体験、動物飼育、交流・意見交換等

図 1 1 . 環境教育実施校における選択テーマ

表 2 . 各学校で選択している題材数（件）

	小学校	中学校	高校・大学等
1種類	17	11	3
2種類	10	6	2
3種類以上	8	1	

なお、回答校における環境教育の題材は以下のとおりです。

### 地球環境

- ・地球環境の保全に向けた国際的な協力について調べ学習
- ・地球環境問題について調べ、自分たちにできることを実践

### 地域の環境

- ・「地域を知る」をテーマとして、体験活動・調べ学習等の実施  
地域の自然環境調べ、春採湖学習、新釧路川の学習、阿寒町の自然、標茶の自然についての調査研究、阿寒湖ネイチャーウォッチング、鶴居をテーマとした調べ学習、弟子屈町の自然をテーマに調べ学習、理科の中で大気と摩周湖の学習、開発局治水課が実施する水生生物調査に希望者が参加、屈斜路湖水質調査、植物分布、植生調査、川湯エコミュージアムセンターの活用（摩周湖、屈斜路湖の成り立ち・環境変化の学習、動植物の個人調査）、温根内ビジターセンターでの自然観察、北斗遺跡、資料館観察、河川の自然調査、水をテーマとした調べ学習
- ・身近な地域環境の保全に向けた取り組み
- ・体験活動、植樹・育苗、学校林での活動など  
カヌー体験、藻琴山登山、鶴居ビジターセンターでの体験学習、マリモ観察会、自然体験活動（自然探索、野鳥観察、資料館見学、化石掘り等）、体験プログラム実施、  
トラストサルン釧路の活動参加、植樹、苗木づくり、森林教室、学校林での活動
- ・教科内で様々なテーマに関連づけて実施

### ごみ・リサイクル

- ・ごみ問題の学習
- ・ごみの分別、リサイクル学習、リサイクル活動
- ・ゴミ処理場・リサイクルセンター見学
- ・リングプル、プルタブ、空き缶等の回収
- ・地域（学校内外）の清掃活動
- ・石鹸づくり

### 省エネ

- ・児童会活動にて節電・節水
- ・学校版 ISO の実施

### 湿原（動植物）・タンチョウ

- ・ビオトープの活用（観察会）
- ・湿原観察会・探索
- ・湿原の動植物を調べる
- ・釧路湿原をフィールドとして、体験・調査を通して知り、保全の取組を調べ、自分たちの出来ることを立案し実践
- ・湿原に住む動植物の季節変化、湿原の成り立ち過程、特徴などの調べ学習

- ・ 釧路湿原の概要、現地での課題別学習
- ・ アメリカ・フロリダ州の中学校と湿原を共通点とした交流の実施
- ・ タンチョウティーチャーズガイドの活用
- ・ タンチョウ生息調査（事前指導での学習）
- ・ タンチョウの給餌

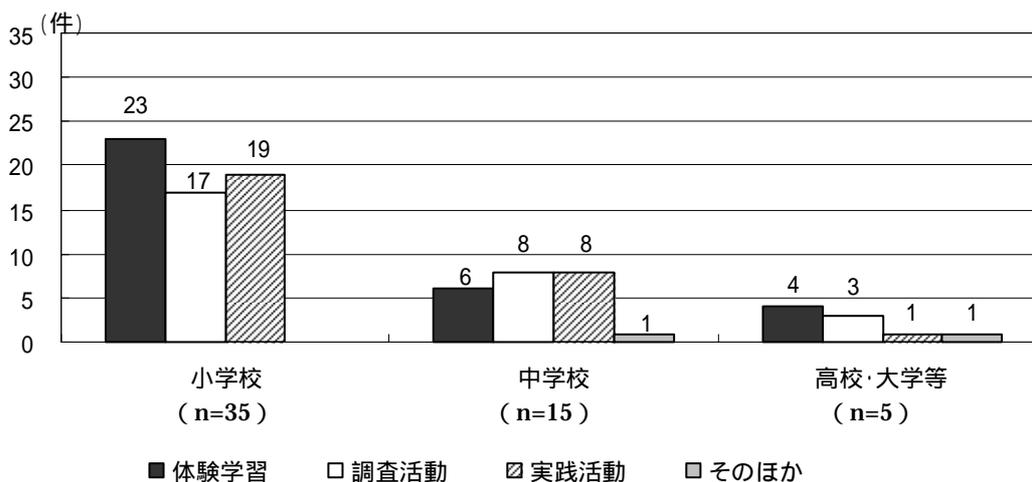
#### そのほか

- ・ 羊飼育
- ・ 栽培活動・畑作体験
- ・ 花壇活動
- ・ 道外・海外から来釧する学生・研究者等との交流・意見交換

## 実施内容

環境教育の実施内容について、下記の区分にて分類し集計しました（複数回答）。

総合的な学習の時間を中心として各教科と連携させながら、1つの選択テーマについて体験学習、調査、実践活動まで一連の流れとして実施している学校もありますが、多くの学校では、複数の題材を選択し、各教科内、総合的な学習の時間、特別活動等の中で題材に合わせて学習内容を設定して実施しているようです。



- 1 体験学習：体験を通して児童の気づきを育むもの（施設や自然環境（フィールド）での観察、体験学習プログラムへの参加、カヌー体験等）
- 2 調査活動：児童が課題設定したテーマに対して、聞き取りや書籍、野外でのデータ収集等により取りまとめを行い発表会やレポートなどにまとめるもの。
- 3 実践活動：児童の設定した課題、地域での課題の解決に向けて具体的な行動を実践するもの
- 4 その他：（道外・海外から来道する学生等との交流・意見交換等）

図 1 2 . 環境教育実施校における実施内容

## 環境教育の実践事例

湿原をテーマとした学習を実施しているもの、各教科と連動させて体系的な実施を試みているものを中心にいくつかの特徴的な事例を抜粋して紹介します。また、各学校が環境教育の題材として選択しているものとして最も多い「地域の環境」をテーマとした事例についても数例を記載します。

### 湿原をテーマとした学習の事例

釧路町（小学校 5 学年 総合的な学習の時間 80 時間）

釧路湿原を題材とした一連の学習を通して、以下を単元の目標として3つの段階に分けて系統立てて実施しています。

・学ぼうとする力：

「釧路湿原」に生息する動植物やそれを守ろうとする人々の活動に目を向けて学習を進める中で、湿原を取り巻く様々な課題に気付き、進んで自然・人・社会と関わりながら学習を進めていこうとする。

・学ぶ力：

自ら課題を設定し、体験的な活動を取り入れながら学習を進め、問題解決に向かい、自己学習力を高めようとする。

・地域に関わる力：

「釧路湿原」を題材に学習する中で、地域の良さに気付いたり、問題解決に向かって地域の人や社会に働きかけたり、地域に自分の考えを伝えたりしながら、地域への愛着を深めようとする。また、授業の一環で国の事業への参加協力を行っています。

ステップ1では、釧路湿原に生息する動植物や湿原そのものについて知る学習を展開し、体験・調査を通して湿原を通して「知る」ことを目的に学習を進めます（20 時間）。ステップ2で各児童が調べた動植物が減少しているという事実を知り、その原因に目を向けていきます。開発・伐採など人間の行動にその原因があることを知った上で、湿原やそこに住む生物を守ろうとしている人々の活動に目を向け、図書館や博物館での学習だけでなく、インタビューや手紙、電子メール、インターネットなどを通じて、情報活用力やコミュニケーション力、表現力を育てていきます（40 時間）。ステップ3では、これまでの学習を踏まえて、釧路湿原、そこに生息する動植物を守るために各自ができることを考え、実行していく活動を展開していきます（20 時間）。

釧路市（小学校 3 学年、4 学年 総合的な学習の時間 34 時間）

「湿原探索と発見」をテーマとして、年間総時間の3分の2にあたる34時間を湿原学習に当て、計画、探索、整理、まとめ、発表までを行っています。それらの学習の中で、季節の移り変わりによって様々に変容する植物や動物などの観察やネイチャーセンター職員の説明などを通して、湿原の誕生から特徴まで調べ、年間3回公共バスを使い実地調査活動を行っており、取り組み後も、家庭で自主的に湿原にふれあう機会が増えてきています。

## 各教科と連動させて体系的に実施している事例

標茶町（小・中学校 小学校 1 学年～中学校 3 学年）

自然を大切にし、環境に優しい心豊かな児童生徒の育成を環境教育の目標として、小学校 1 学年から中学校 3 学年までを一貫として捉え、全体計画を立てて、総合的な学習の時間、各教科、特別活動等の時間などで体系的に実施しています。教科では、環境に対する関心、問題解決能力、科学的な見方の育成に重点を置き、各教科での学習内容と連動させて学習を進めています。総合的な学習の時間では、自ら課題を見つけ、学び、考え、主体的に判断し、問題を解決する資質や能力の育成に重点を置いて、学校林や学校農園での体験活動、問題解決的な学習などを進めています。また、環境保全に対する道徳的実践力を道徳の時間に、実践的な態度の育成を特別活動において視点を置いて実施しているほか、指導方法や教材の工夫を行いながら、保護者や地域との連携を図りながら学習を進めています。

## 地域学習についての事例

釧路市（小学校 5 学年 総合的な学習の時間 25 時間）

釧路のまちについて話し合いを行った後に、テーマを決めてインターネットや図書室の本で調べ学習を行います。その後、グループに分かれて現地学習を実施し、それらから得られたことをまとめ、発表を行うとともに、釧路のパンフレットや辞典などを作成し観光名所などへ配架協力の依頼を行っています。

釧路町（小学校 3～6 学年 総合的な学習の時間 各学年 30 時間）

生活圏の自然環境を 3～6 学年で一貫したテーマとして、発達段階に応じた学習を行っています。身近な地域をフィールドとした体験活動や調査活動を通して、地域の環境や身の回りの環境に対する興味や関心を促し、地域の自然や社会の仕組みへ目を向けさせていきます。それらの保全に向けて自分達に出来ることを探求するとともに、実践にも取り組むことで、様々な場面においても課題解決に取り組む意欲を育てています。

釧路市（中学校 1 学年 総合的な学習の時間 35 時間）

地域探検をテーマにして、課題の設定及び追求、課題の掘り下げ、それらの表現までを学習します。総合的な学習の意義について理解した後に、各児童の興味関心があるテーマを設定します。それらの研究計画を立案し、インターネットや書籍、専門家などの話から資料を収集します。これらの収集資料を分析するとともに課題の掘り下げを行い、各自の考えや意見を明確化させていきます。最後に、これらを表現するための方法を決め、発表を行います。各段階において反省と振り返りを行いながら学習をすすめています。

2 - 5 実施における課題等があれば、可能な範囲でご記入ください。

回答(様式自由)

問3 - 1へ

自由記入欄の内容について、いくつかの項目に分類し集計を行いました。  
記載がないものや「特になし」と回答した学校が最も多く、「課題がある」とした学校では、郊外での体験学習や調査活動に係る事項での課題が最も多く、次いで指導者や環境教育全般についての課題が高い割合となっています。

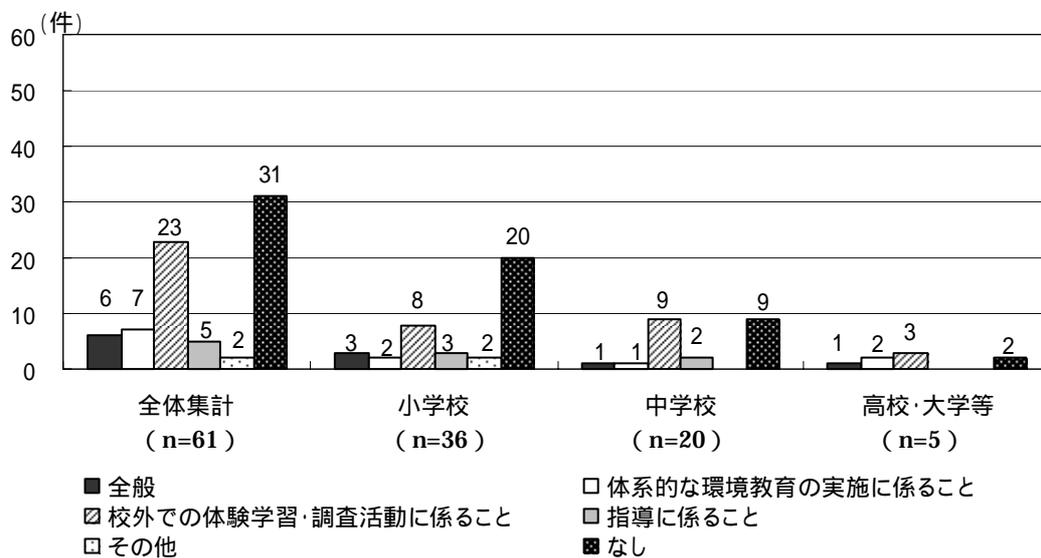


図13. 環境教育実施校における実施に際しての課題

なお、課題の記載内容の概要は以下のようになっています。

表3．課題の内容（件）

（複数回答）

課題区分	内容	小学校	中学校	高校・大学等
全般	予算	2	1	
	時間	2		1
体系的な環境教育の実施に係ること	課題の選択	1		
	体系的な取組	1	1	1
	目標の設定	1		
	評価			1
指導に係ること	学習資料	1		
	指導者	2	2	
	連絡調整			1
校外での体験学習・調査活動に係ること	予算	4	1	1
	時間	3	1	
	移動	3	3	
	施設整備	1		
	生徒数	1	1	
	天候	1		1
	体験学習の段取り		1	
	施設、設備の充実		1	
その他	地域での状況 (児童の学習意欲が低下)	1		
	連絡調整	1		

2 - 6 環境教育を実施されていない理由を差し支えない範囲でご記入ください。

回 答(様式自由)

問2 - 7へ

「環境教育を実施していない」と回答した 18 校及び環境教育の実施状況についての記載がなかった 1 校を含めた全 19 校について、実施に際しての制約要因をまとめました。

全体の傾向として、他教科との調整が必要でありカリキュラムの大幅な見直しなくして導入は難しいという意見が多くなっています。これらは単に時間的な制約に留まらず、環境教育と他教科それぞれにおける位置づけの見直しが必要という視点を含めた意見として出されています。また、総合的な学習の時間などで時間数をとっていないものの各教科内で関連させながら実施していることや、地域学習や福祉教育など他の題材を選択していることなどから、今後も環境教育の実施意向がないと回答した学校も多くなっています。

表 4 . 環境教育の実施に係る制約要因の内容 ( 件 )

( 複数回答 )

	回答校全体 (n=19)	小学校 (n=9)	中学校 (n=6)	高校・大学等 (n=4)
各教科にて実施している	8	6	2	0
他教科との調整(カリキュラムの大幅な見直し)	7	3	3	1
他の題材を選択している(地域学習、福祉教育)	6	3	3	0
移動	2		1	1
他の体験活動との調整	1		1	
指導者	1			1
時間	1		1	0
職員間の理解	1			1
予算	1			1

2-7 環境教育を新しく導入していく場合、どのような支援や条件が必要になるでしょうか。考えられるものを全て選んで をつけてください。 、 を選んだ場合には、可能な範囲で具体的にご記入ください。	
回 答	選 択 肢
	指導資料等授業のプログラムやマニュアルの整備
	外部からの講師の派遣
	予算(予算規模、利用目的を可能な範囲でご記入ください)
	そのほか(具体的にご記入ください)

問3-1へ

「環境教育を実施していない」と回答した18校に加え、実施していると回答した学校のうち本設問に回答いただいた学校22校について集計しました。なお、集計にあたっては、設問2-1で「環境教育を実施している」、「実施の意向はあるが現在のところ実施していない」、「実施の意向はない」と回答した学校ごとに区分して行いました。

設問2-1の回答による大きな違いは見られず、全体として授業のプログラムやマニュアルの整備、外部からの講師の派遣等、環境教育の指導に係る項目が高い割合を占めています。実施校においては、フィールドでの体験学習実施に係る予算、特に児童の移動に係るバス代を支援条件として挙げる学校が多く、また、設問2-1への回答に関わらず、外部講師の謝礼等、活動経費に係る内容が挙げられています。

そのほかの支援条件として、「環境教育を実施していない」と回答した学校においては、カリキュラム内での位置づけの整理や各教科における指導の充実といった事項が挙げられています。

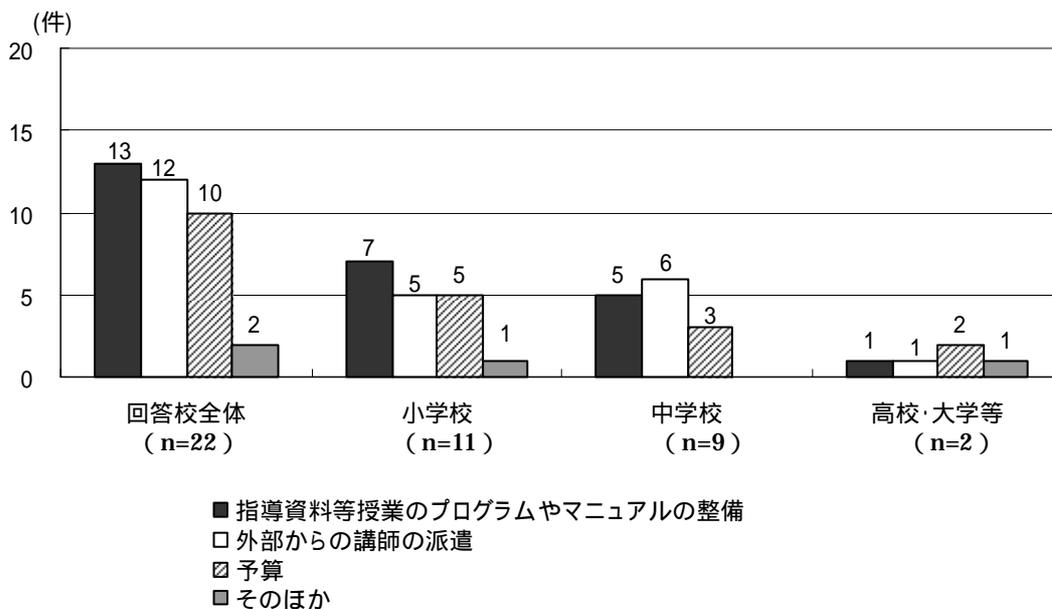


図14 環境教育の実施に際して必要な支援方策及び実施条件 (環境教育実施校)

「 予算 」を選択した学校 10 校のうち、記入があったもの 6 校についての内訳

バス代 [ 4 件 ]

活動経費全般 [ 1 件 ]

資材購入費 [ 1 件 ]

「 そのほか 」を選択した学校 2 校についての内訳

移動手段 [ 1 件 ]

名目ばかりの環境教育の情報に学生が混乱する [ 1 件 ]

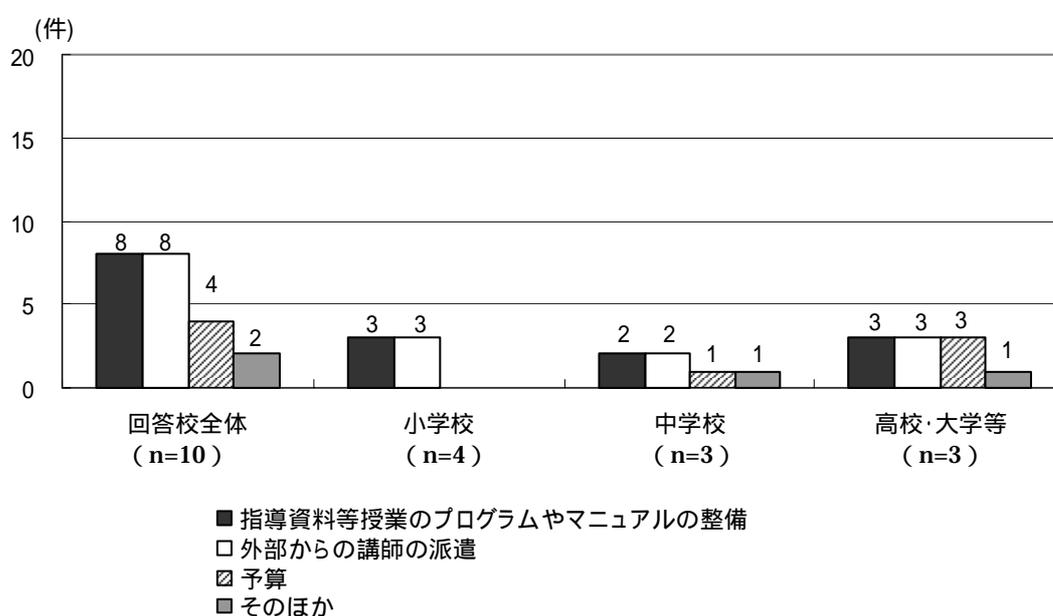


図 1 5 . 環境教育の実施に際して必要な支援方策及び実施条件 (意向はあるが実施していない)

「 予算 」を選択した学校 4 校のうち、記入があったもの 3 校についての内訳 (複数回答)

バス代 [ 2 件 ]

外部講師謝礼 [ 1 件 ]

活動経費全般 [ 1 件 ]

交通費 [ 1 件 ]

「 そのほか 」を選択した学校 2 校についての内訳

カリキュラム内での位置づけ [ 1 件 ]

他教科との調整 [ 1 件 ]

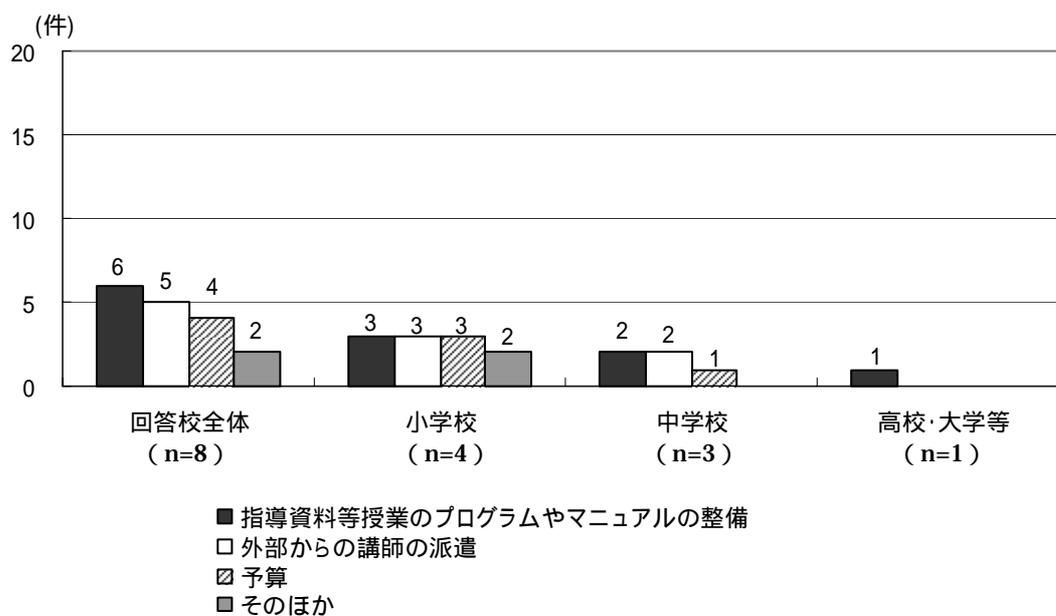


図 1 6 . 環境教育の実施に際して必要な支援方策及び実施条件（実施の意向なし）

「 予算 」を選択した学校 4 校のうち、記入があったもの 2 校についての内訳

活動経費全般 [ 1 件 ]

資材購入費 [ 1 件 ]

「 その他 」を選択した学校 2 校についての内訳

移動手段 [ 1 件 ]

各教科での指導充実 [ 1 件 ]

### 3 . 湿原を題材とした教育の実施状況について

以下の設問では、湿原でのマラソンや遠足等、環境教育以外の活動も含めて、また、実施単位としては学年、学級、グループ単位での実施も含めてご回答ください。

3 - 1 湿原を題材またはフィールドとした教育活動を実施していますか、1つ選んで をつけてください。		
回答	選択肢	
	実施している 該当する実施単位を全て選んで をつけてください。 実施単位 学校 ・ 学年 ・ 学級 ・ グループ	問3 - 2へ
	実施の意向があるが、現在のところ実施していない	
	実施の意向はない	問3 - 5へ

全体を通して、「実施している」と回答している学校数は2～3割となっていますが、実施の意向がある学校も含めると半数以上の学校において、湿原を題材とした教育活動に何らかの関心を寄せていることがわかります。

「実施している」と回答した26校については、学年単位で実施しているものが全体として割合が高くなっています。また、小学校ではグループ単位での実施は見られませんが、中学校以上においては、グループ単位での学習機会が多くなってきていることがわかります。

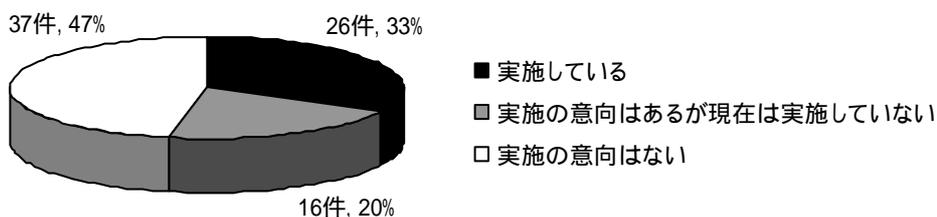


図17 . 湿原を題材またはフィールドとする教育活動の実施状況 (回答校全体 n=79)

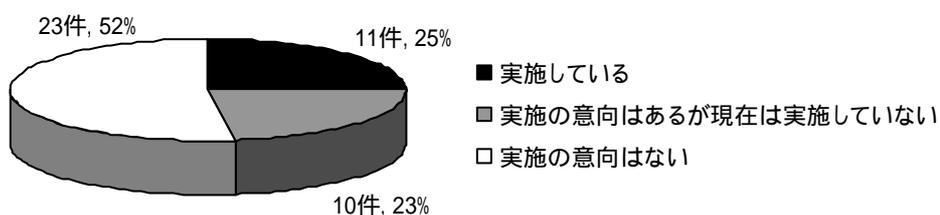


図18 . 湿原を題材またはフィールドとする教育活動の実施状況 (小学校 n=44)

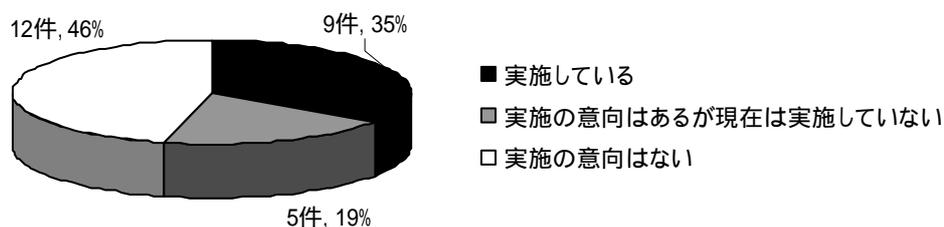


図19 . 湿原を題材またはフィールドとする教育活動の実施状況 (中学校 n=26)

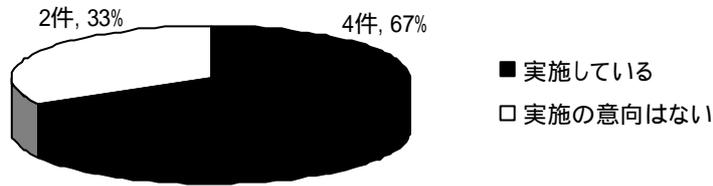


図 2 0 . 湿原を題材またはフィールドとする教育活動の実施状況 (高等学校 n=6)

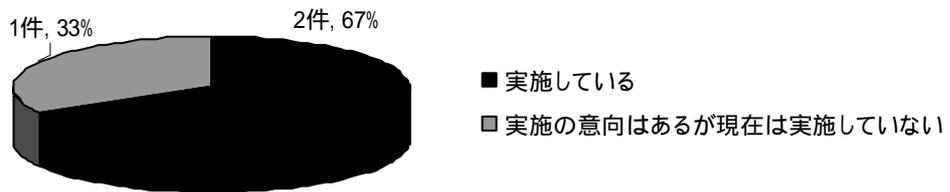


図 2 1 . 湿原を題材またはフィールドとする教育活動の実施状況 (大学・高専等 n=3)

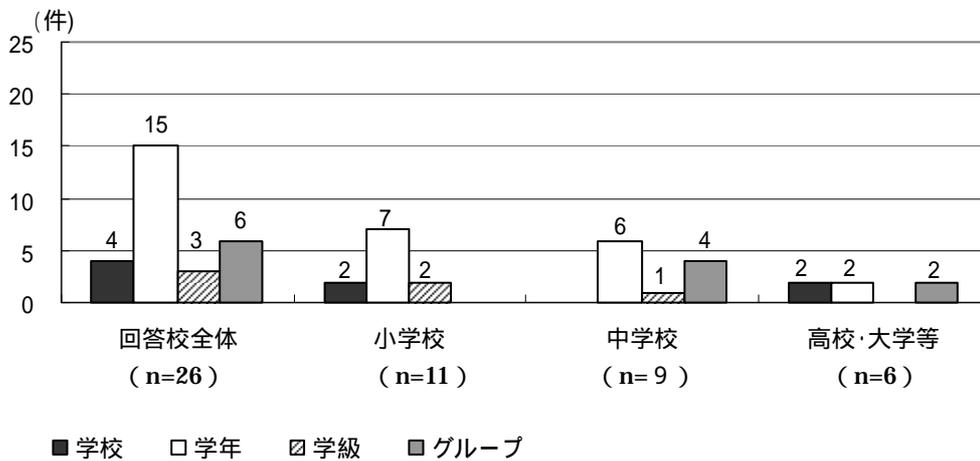


図 2 2 . 湿原を題材とした教育活動における実施単位

3 - 2 どのような時間に実施していますか。当てはまるものを全て選んで をつけてください。	
回答	選択肢
	総合的な学習の時間に実施している
	教科の中で実施している
	課外活動で実施している
	そのほか( )

**問3 - 3へ**

全体の傾向として、総合的な学習の時間で実施する学校が最も多く、次いで各教科の中で実施している学校が多くなっています。これは、2-3 の設問「環境教育の実施時間」への回答と同様の傾向となっています。

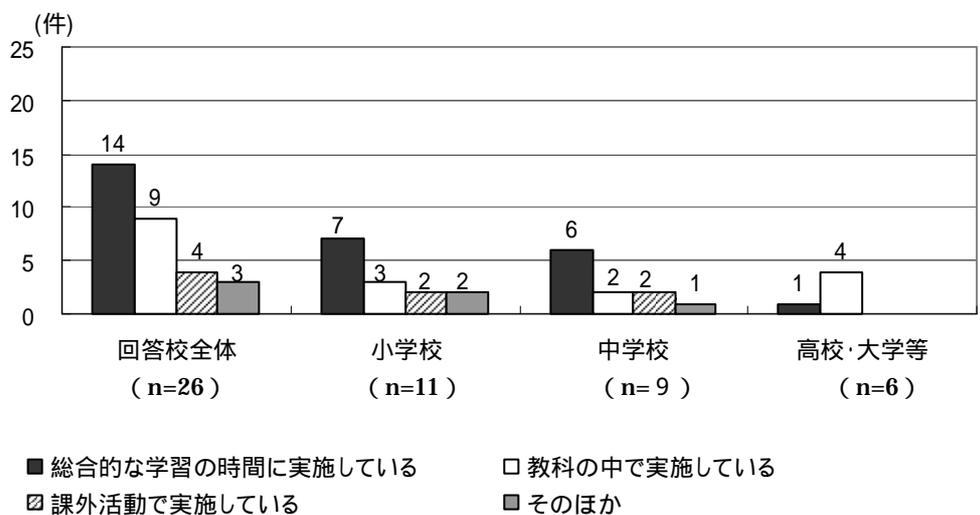


図 2.3 . 湿原を題材とした教育活動における実施時間

- 「 そのほか 」を選択した 3 校についての内訳
- 体育的行事 [ 2 件 ]
  - 学校行事 (遠足) [ 1 件 ]

3 - 3 対象学年、時間数等、可能な範囲で具体的な内容、成果、感想等をご記入ください。

回答(様式自由) これらが記載されている文書等の同封に代えていただいてもかまいません。

問3 - 4へ

自由記入いただいた内容を、遠足やマラソン等の行事とそれ以外の活動に区分して概要を以下にまとめています。なお、2 - 4「環境教育実施に係る対象学年、時間数、具体的な内容、成果、感想等」に本項目に該当する実施内容の記述がある学校については、その内容も含めて集計しました。

### 湿原を題材とする教育活動（マラソン等の活動を除く）の実施概要

#### ・対象

小学校においては、4年生を中心として前後の学年も含めて対象として湿原を題材もしくはフィールドとする教育活動を行う学校が多くありました。

中学校においては、1年生を対象として行う学校が多く、回答校においては2、3年生を対象とする学校はみられませんでした。

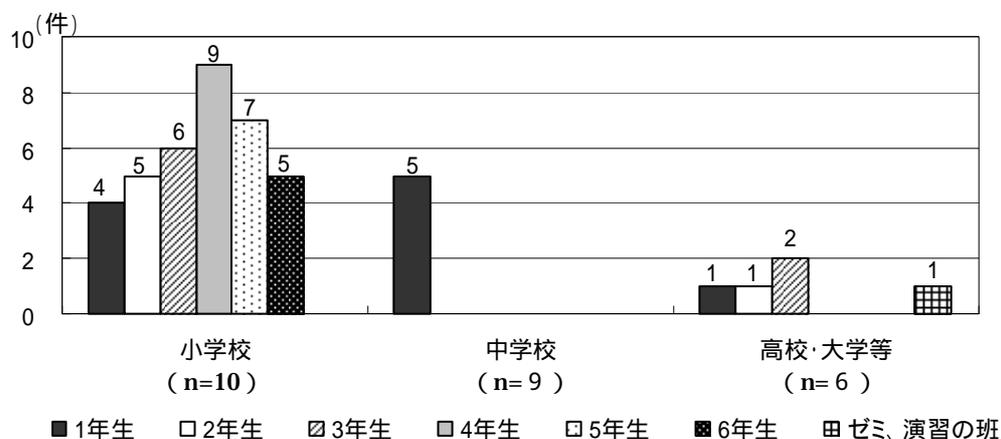


図24. 湿原を題材とした教育活動における対象（マラソン等の活動は除く）

・実施概要

なお、市町村区分毎にまとめると、以下のとおりとなります。

表5．湿原を題材とする教育活動（マラソン等の活動を除く）の概要

	市町村	実施概要	
小学校	釧路市	「くしろのまちを調べよう」をテーマにグループにて課題選択(5年 25時間 総合) その中で、湿原を題材とする生徒もいる キナシベツ湿原の自然をテーマに学習	
		「湿原探索と発見」をテーマに湿原学習を実施 (3,4年 35時間 総合) 「釧路のここがすばらしい」のテーマの中でグループにて課題を選択 釧路湿原を取り上げて活動したグループもある 社会科の科目内で校外学習、理科の科目内で湿原探索を実施	
		湿原の動植物について調べの学習を実施。 おたまじゃくしの飼育と放流や、外部講師を招聘(年3回)した特別授業を実施	
		湿原をフィールドとして、体験や調査活動を通して湿原を知り、保全の取組を調べ、 自分たちの出来ることを立案し実践している (5年 総合 80時間) 花咲いさんプロジェクトへの協力(種の採取、育苗、植樹) (4~6年 総合)	
	標茶町	釧路湿原の動植物の観察学習 (全校児童 学校行事午後半日)	
	鶴居村	タンチョウ一斉調査への協力 タンチョウへの給餌活動	
	鶴居村	春、秋の2回、指導員の説明のもとで湿原探索を実施 (3,4年 総合 25時間)	
弟子屈町	「春をさがそう」行事の中でネイチャーゲームなどを通して湿原の動植物に対する知識を深める		
中学校	釧路市	「地域を知る」をテーマに、各児童にて課題を設定 (1年 総合 35時間) 湿原をテーマに選択する児童もいる 「自分と地域環境との関わり」をテーマに、課題解決的な学習を実施 (1年 総合 23時間) 釧路湿原の概要を知る、フィールドワーク(木道散策、オリエンテーリング、現地での課題別学習)を実施	
		釧路町	身の回りの生物の観察、地形と地図の授業等で、湿原周辺の動植物の生態をまとめている (1年 2時間 理科・社会)
		標茶町	「標茶の自然」をテーマにグループ単位で調査研究を実施。(1年 総合 35時間)
	高等学校	道立	温根内ビジターセンターでの自然観察、北斗遺跡、資料館観察等の現地学習を実施 (1年 教科内で実施 20時間) タンチョウティーチャーズガイドの活用 (3年 選択授業 3時間)
大学・高専等			高専等
大学・高専等	大学	トラストサルン釧路の活動へ参加 環境地理学演習にて調査研究、道外・海外から来釧する学生・研究者等との交流・意見交換を実施 年1回の釧路湿原視察ツアーの実施。	

## マラソン等の活動

マラソン等のフィールドとして湿原を活用していると回答した学校は6校でした。

表6．湿原をフィールドとしたマラソン等の活動（件）（複数回答）

対象学年	湿原強歩 (n=3)	湿原マラソン (n=2)	湿原遠足 (n=2)
中学1年			1
中学陸上部		2	
中学校全学年	1		
高等学校全学年	2		

3 - 4 実施における課題等があれば、可能な範囲でご記入ください。

回答(様式自由)

問4 - 1へ

小学校においては、湿原への現地学習実施に係る課題が挙げられており、移動に際しての予算や多くの時間を移動に費やしてしまうといった課題を中心に、現地学習における指導者や調整事務、安全対策、天候に左右されるなど、その内容は多岐にわたります。

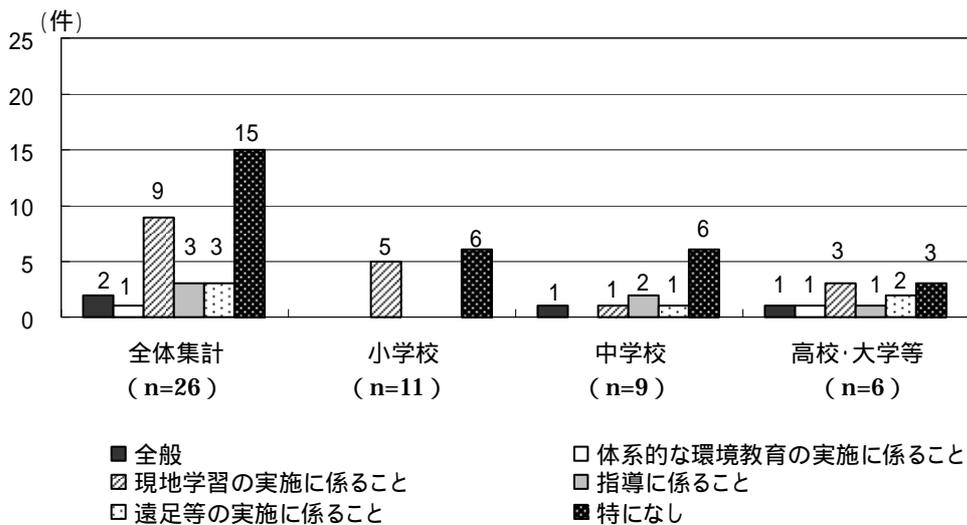


図 2 5 . 湿原を題材とした教育活動の実施校における実施に際しての課題

なお、課題の記載内容の概要は以下のようになっています。

表7．各課題の内容（件） （複数回答）

全般	時間	2
	予算	1
体系的な環境教育の実施に係ること	体系的な取組	1
現地学習の実施に係ること	予算	4
	時間	3
	移動	1
	交通手段	1
	現地学習の日程調整	1
	生徒数	1
	指導者	1
	連絡調整	1
	安全対策	1
	天候	1
指導に係ること	指導者	2
	資料収集	1
遠足等の実施に係ること	安全性	2
	距離	1
	児童の健康管理	1
	人員が多数必要	1
	受入施設の調整	1
	生徒数	1

3 - 5 湿原を題材とした教育活動を実施されていない理由を、差し支えない範囲でご記入ください。

回答(様式自由)

問3 - 6へ

「湿原を題材とした教育活動を実施していない」と回答した53校のうち、記載のあった49校について、自由記入いただいた内容を4項目に区分し、設問3-1の回答区分ごとに集計を行いました。

実施の意向によらず、「身近な素材ではない」、「他に適した素材がある」等の意見を中心とした『既に取り組んでいる題材がある』といった項目、「移動手段の確保」、「距離」等の意見を中心とした『フィールドとして適さない』といった項目に関する意見が多く挙げられています。実施意向がない学校においては、題材やフィールドとしての適正、学校の方針等を踏まえて、「学校として必要性を感じない」、「カリキュラムの見直しが必要」等の意見も見られます。

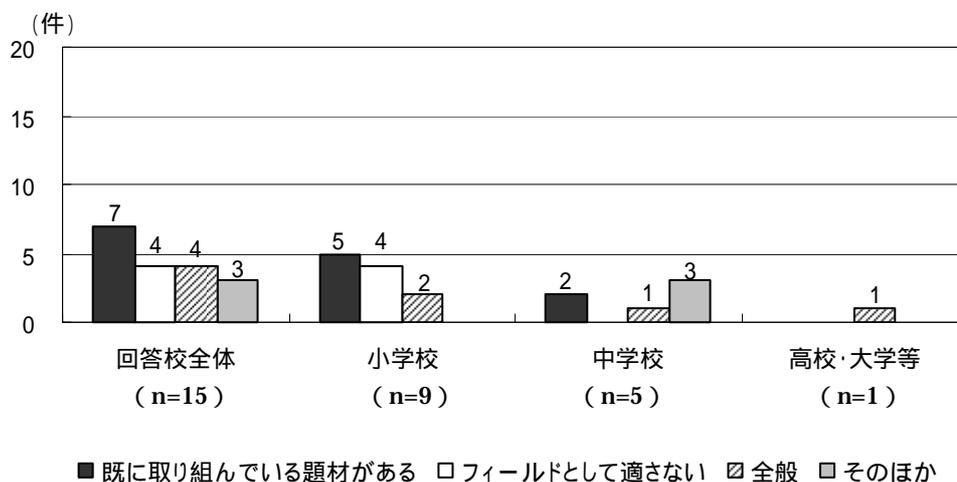


図 2.6 . 湿原を題材とした教育活動実施に係る制約要因 (実施意向あり)

表 8 . 湿原を題材とした教育活動に係る制約要因の概要 (実施意向あり n=15 複数回答)

大項目	詳細項目	全体	小学校	中学校	高校・大学等
既に取り組んでいる題材がある	授業時間の確保	2	1	1	
	身近な素材ではない	3	3		
	他に適した素材がある	2	1	1	
フィールドとして適さない	移動手段の確保	1	1		
	距離	2	2		
	授業時間の確保	1	1		
全般	授業時間の確保	2		1	1
	情報不足	1	1		
	予算	1	1		
そのほか	今年度は選択テーマではなかった	1		1	
	生徒の課題選択に依存	2		2	

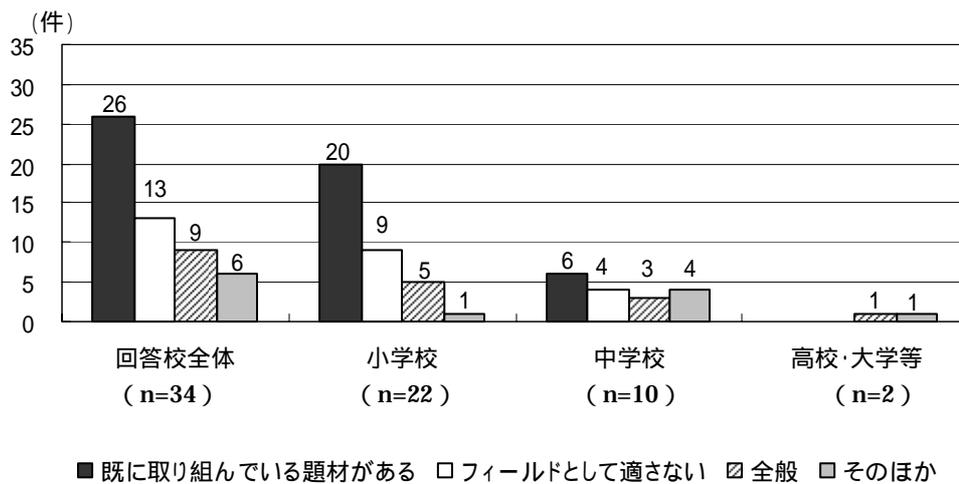


図 2 7 . 湿原を題材とした教育活動実施に係る制約要因 (実施意向なし)

表 9 . 湿原を題材とした教育活動に係る制約要因の概要 (実施意向なし n=34 複数回答)

大項目	詳細項目	全体	小学校	中学校	高校・大学等
既に取り組んでいる題材がある	身近な素材ではない	13	10	3	
	他に適した素材がある	13	10	3	
フィールドとして適さない	移動手段の確保	4	3	1	
	距離	6	3	3	
	交通費	2	2		
	授業時間の確保	1	1		
全般	授業時間の確保	3	1	1	1
	必要性が低い	5	4	1	
	予算	1		1	
そのほか	各教科にて実施している	1	1		
	学校規模	1		1	
	教育活動の方針	1		1	
	指導者	2		1	1
	大幅なカリキュラムの見直し	1		1	

3 - 6 湿原を題材とした教育を新たに導入しようとする場合、どのような支援や条件が必要になるでしょうか。考えられるものを全て選んで をつけてください。 、 を選んだ場合には、可能な範囲で具体的にご記入ください。	
回 答	選 択 肢
	指導資料等授業のプログラムやマニュアルの整備
	外部からの講師の派遣
	予算(予算規模、利用目的を可能な範囲でご記入ください)
	そのほか(具体的にご記入ください)
	問4 - 1へ

「湿原を題材とした教育活動を実施していない」と回答した53校のうち記載のあった50校に加え、「湿原を題材とする教育活動を実施している」と回答した学校のうち、本設問に回答のあった8校について集計しました。なお、集計にあたっては、設問3-1で「湿原を題材とした教育活動を実施している」、「実施の意向はあるが現在のところ実施していない」、「実施の意向はない」と回答した学校ごとに区分して行いました。

設問3-1への回答に関わらず、授業のプログラムやマニュアルの整備、外部からの講師の派遣等、指導に係る項目が高い割合を占めているほか、フィールドでの体験学習実施に係る予算、特に児童の移動に係るバス代を支援条件として挙げる学校が多くなっています。

「湿原を題材とした教育活動を実施していない」と回答した学校においては、実施の意向に関わらず、そのほかの支援条件として、他題材との調整、教育課程での位置づけの整理、時数の確保、移動手段の確保などが挙げられています。また、実施の意向がないと回答した学校においては、題材として湿原を活用していくことについての難しさ等も挙げられています。

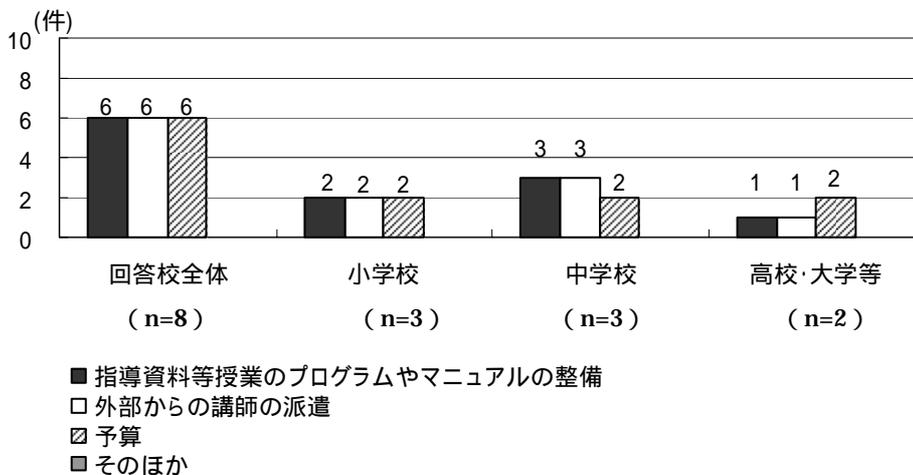


図 2 8 . 湿原を題材とした教育活動実施に係る必要な支援方策及び実施条件 (実施校)

「 予算」を選択した 6 校のうち、記入があったもの 5 校についての内訳

バス代 [ 4 件 ]

活動経費全般 [ 1 件 ]

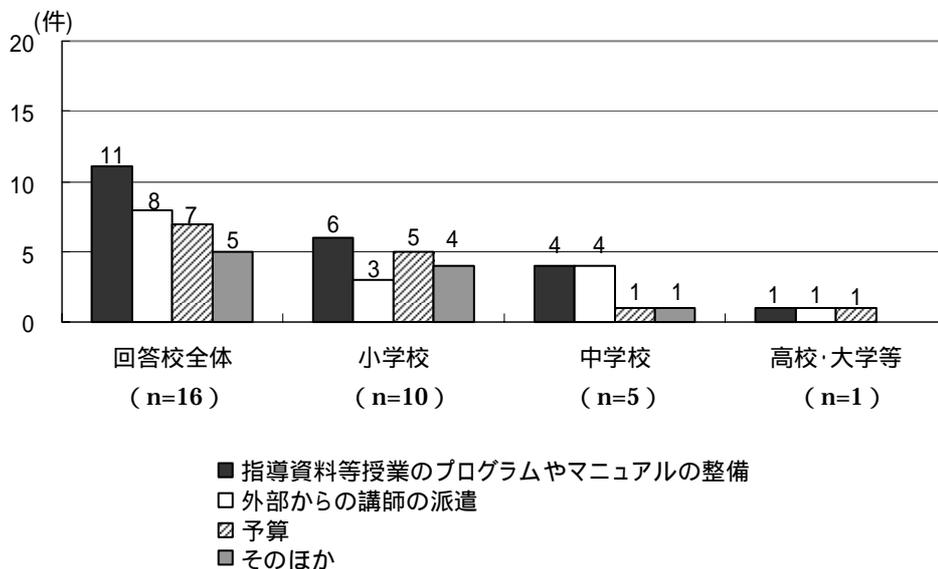


図 2 9 . 湿原を題材とした教育活動実施に係る必要な支援方策及び実施条件 ( 実施意向あり )

「 予算」を選択した 7 校の内訳 ( 複数回答 )

バス代 [ 6 件 ]

活動経費全般 [ 1 件 ]

教材購入費 [ 1 件 ]

見学料 [ 1 件 ]

「 そのほか」を選択した 5 校についての内訳

他題材との調整 [ 1 件 ]

移動手段の確保 [ 1 件 ]

教育課程の見直し [ 1 件 ]

時間数の確保 [ 1 件 ]

他領域での学習内容 ( すでに実施しているもの ) の整理の上に、実施のための時数が出てくるので、その整理が難しい [ 1 件 ]

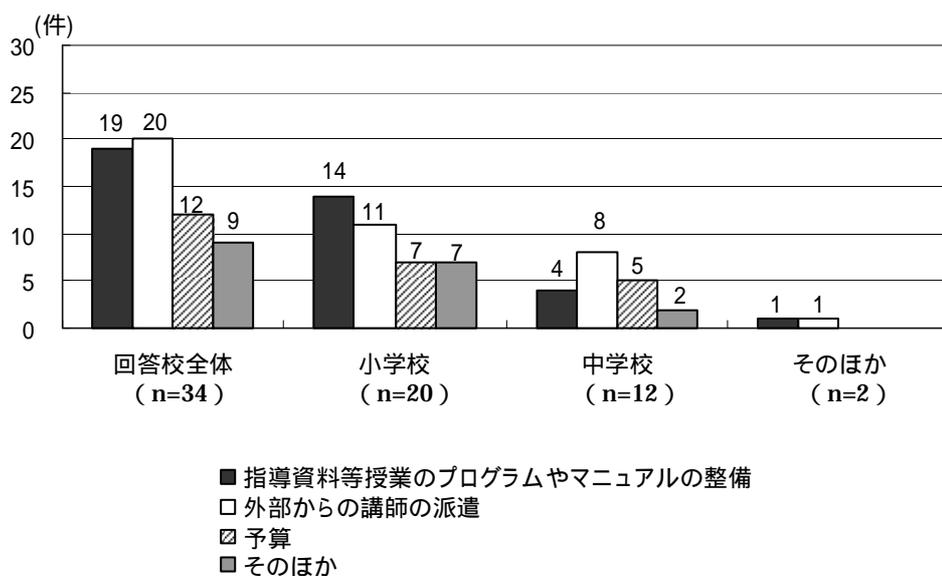


図 30 . 湿原を題材とした教育活動実施に係る必要な支援方策及び実施条件（実施意向なし）

「 予算」を選択した 12 校のうち、記入があったもの 5 校についての内訳  
 バス代 [ 5 件 ]

「 そのほか」を選択した 9 校についての内訳

バスの手配、時間数の確保 [ 1 件 ]

距離 [ 1 件 ]

交通手段の確保 [ 1 件 ]

時間数の確保・時数確保 [ 2 件 ]

体験学習のメニューやスタッフ、移動手段の手配 [ 1 件 ]

理科や社会で活用可能な副読本の作成 [ 1 件 ]

（以下、興味深い意見については原文を記載）

- ・移動時間がとられるため、実際の活動時間が短くなり、よほど綿密な計画の基に行われる価値ある活動であっても教育課程に位置づけることは難しい。
- ・今後、学習指導要領が改訂となり、総合的な学習の時間の時間数削減が予想されている。現行の学習計画を整理する中で、湿原を題材（フィールド）とした学習をどのように組み込むことができるか、課題だと考えている。
- ・子供の発達と題材を用いることのねらいについて吟味する必要がある。
- ・新たな導入の必要性がない。

#### 4 . 湿原を題材とした環境教育への意向について

<b>4 - 1 釧路湿原自然再生協議会では、湿原を活用した環境教育の推進方策を検討していくために、同協議会メンバーの有志から成る環境教育ワーキンググループ(座長:高橋忠一北海道教育大学釧路校准教授)を設置しています。このワーキンググループの活動に関心がありますか。以下から1つ選んで をつけてください。( 釧路湿原自然再生協議会については、別添の同封資料をご参照ください。)</b>	
回 答	選 択 肢
	関心がある 仮に、メンバーとして参加をご検討いただく場合、参加にあたっての条件があれば以下にご記入ください。
	特に関心はない
<b>問4 - 2へ</b>	

本設問から 4-3 の設問に共通して、「回答校全体」、「小学校」、「中学校」、「高校・大学等」について、設問 3-1 の回答区分ごとに関心度を集計しました。

全体としては、3 割の学校で「関心がある」と回答していますが、特に小学校においては「関心がある」と回答した学校が 45%と非常に高くなっています。

設問 3-1 の回答区分ごとでは、実施校においては約半数の学校で「関心がない」と回答していますが、「実施意向があるが現在のところ実施していない」と回答した学校においては、特に小学校において高い割合で関心があると回答しています。また、「実施意向はない」とした学校であっても、小学校においては、「関心がある」と回答した学校も多くあることがわかります。

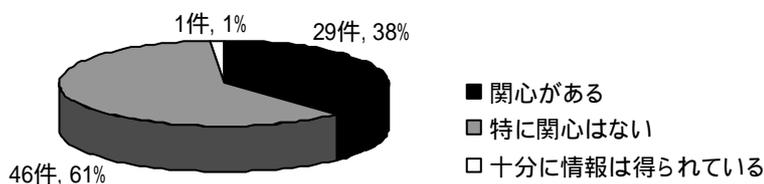


図 3 1 . 環境教育ワーキンググループへの関心 (回答校全体 n=76)

表 1 0 . 湿原を題材とした教育活動の実施状況別 環境教育 WG への関心度 (回答校全体)

	実施校	実施意向あり	実施意向なし	実施不明
関心がある	10	11	7	1
関心がない	14	5	27	
十分に情報は得られている	1			

## メンバーとして参加を検討いただく際の参加にあたっての条件

### [小学校]

- ・ 関心はありますが参加の意思はありません。
- ・ 個人的には協議会が主催した講演会などに参加している。
- ・ 進展された方策を資料として欲しい。
- ・ 特に考えていないが、今後取り組みたい。

### [中学校]

- ・ 時間がない

### [そのほか]

- ・ 関心はあるが、学校業務及び部活動指導で思うように時間が取れません。

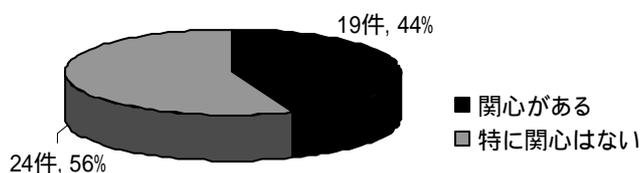


図 3 2 . 環境教育ワーキンググループへの関心 (小学校 n=43)

表 1 1 . 湿原を題材とした教育活動の実施状況別 環境教育 WG への関心度 (小学校)

	実施校	実施意向あり	実施意向なし	実施不明
関心がある	4	8	6	1
関心がない	7	2	15	

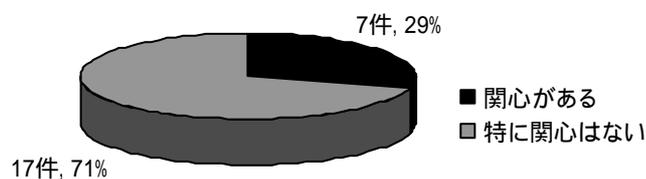


図 3 3 . 環境教育ワーキンググループへの関心 (中学校 n=24)

表 1 2 . 湿原を題材とした教育活動の実施状況別 環境教育 WG への関心度 (中学校)

	実施校	実施意向あり	実施意向なし
関心がある	4	2	1
関心がない	4	3	10

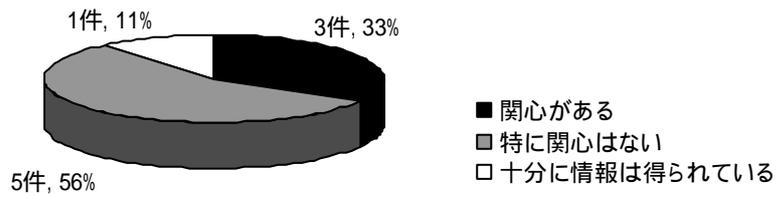


図 3 4 . 環境教育ワーキンググループへの関心（高校・大学等 n=9）

表 1 3 . 湿原を題材とした教育活動の実施状況別 環境教育 WG への関心度（高校・大学等）

	実施校	実施意向あり	実施意向なし
関心がある	2	1	
関心がない	3		2
十分に情報は得られている	1		

4 - 2 湿原を題材とする環境教育のプログラムや教材に関心はありますか、以下から1つ選んで をつけてください。		
回 答	選 択 肢	
	関心がある（プログラムや教材づくりへの協力も考えたい。） 仮に、ご協力いただける場合、条件があれば以下にご記入ください。	問4 - 3へ
	特に関心はない	

全体としては、4割程度の学校で「関心がある」と回答しており、設問 4-1 で「関心がない」とした学校においても、本設問では「関心がある」と回答いただいている学校が増えています。特に中学校においては、その変化が大きくなっています。設問 3-1 の回答区分ごとでは、全体を通して、設問 4-1 回答と同様の傾向がみられますが、設問 4-1 に比べて、「関心がある」と回答する学校が増加している傾向にあります。

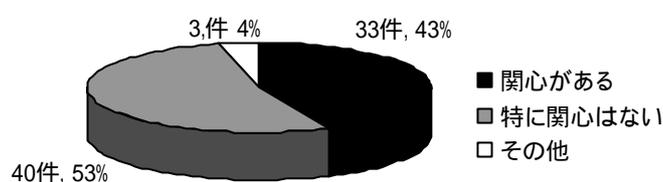


図 3 5 . 湿原を題材とする環境教育プログラムや教材への関心（回答校全体 n=76）

表 1 4 . 湿原を題材とした教育活動の実施状況別 プログラム・教材等への関心度（回答校全体）

	実施校	実施意向あり	実施意向なし	実施不明
関心がある	11	12	9	1
関心がない	13	3	24	
そのほか	2	1	1	

「関心がある」「特に関心がない」の選択項目以外の「そのほか」内訳

[小学校]

- ・関心はあるが、協力は除く
- ・関心はあるが、資料提供のみ希望
- ・どちらとも言えない

## 協力をいただける場合の条件

### [小学校]

- ・ 関心はありますが、現状を考えると協力はできません
- ・ 現在活動中の地域の河川を利用、題材にした学習プログラム
- ・ 資料がほしい

### [中学校]

- ・ 時間がない

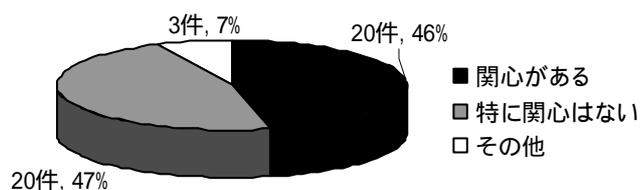


図36 . 湿原を題材とする環境教育プログラムや教材への関心 (小学校 n=43)

表15 . 湿原を題材とした教育活動の実施状況別 プログラム・教材等への関心度 (小学校)

	実施校	実施意向あり	実施意向なし	実施不明
関心がある	4	8	7	1
関心がない	6	1	13	
そのほか	1	1	1	

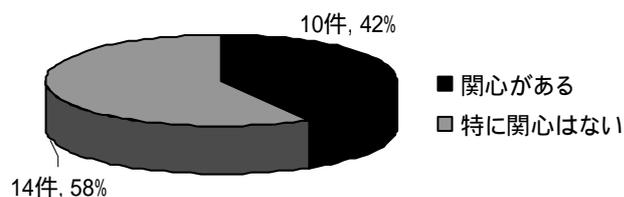


図37 . 湿原を題材とする環境教育プログラムや教材への関心 (中学校 n=24)

表16 . 湿原を題材とした教育活動の実施状況別 プログラム・教材等への関心度 (中学校)

	実施校	実施意向あり	実施意向なし
関心がある	5	3	2
関心がない	3	2	9

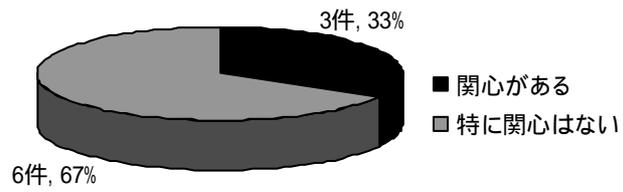


図 3 8 . 湿原を題材とする環境教育プログラムや教材への関心 ( 高校・大学等 n=9 )

表 1 7 . 湿原を題材とした教育活動の実施状況別 プログラム・教材等への関心度 ( 高校・大学等 )

	実施校	実施意向あり	実施意向なし
関心がある	2	1	
関心がない	4		2

4 - 3 湿原を題材とする環境教育のプログラムや教材が作成された場合、授業での活用等に関心はありますか、以下から1つ選んで をつけてください。	
回 答	選 択 肢
	関心がある(モデル授業の実施等も考えたい) 実施に当たっての条件等があれば以下にご記入ください。
	特に関心はない

問4 - 4へ

全体としては、5割程度の学校で「関心がある」と回答しており、実施にあたっての条件についても具体的にいただいております。設問 4-1 から 4-3 では本設問が最も関心を持っていただいていることがわかります。一方、モデル授業等の実施にあたっては、内容次第であること、学校内における他授業との調整等が条件として挙げられています。

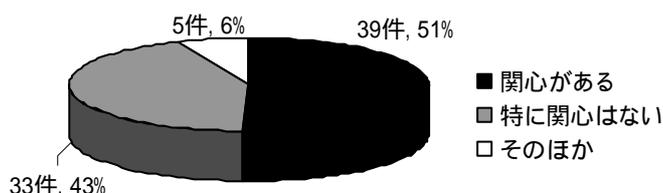


図 3 9 . 湿原を題材とする環境教育プログラムや教材の授業活用への関心 ( 回答校全体 n=77 )

表 1 8 . 湿原を題材とした教育活動の実施状況別 授業での活用への関心度 ( 回答校全体 )

	実施校	実施意向あり	実施意向なし	実施不明
関心がある	13	13	12	1
関心がない	10	2	21	
そのほか	2	1	2	

「関心がある」「特に関心がない」の選択項目以外の「そのほか」内訳

- 関心はあるが、資料提供のみ希望 [ 小学校 1 件 ]
- 関心はあるが、モデル授業実施協力は除く [ 小学校 1 件 ]
- どちらとも言えない [ 中学校 1 件 ]
- どちらとも言えない ( 内容による ) [ 中学校 1 件 ]
- 特に関心はない ( プログラムやマニュアルなど対応の仕方が固定化してしまう恐れもあるので ) [ そのほか 1 件 ]

### モデル授業実施にあたっての条件

学年の発達段階を考慮した、継続的に実施するプログラム。[ 小学校 1 件 ]

関心はありますが、モデル授業の実施は難しいです。[ 小学校 1 件 ]

資料がほしい。[ 小学校 1 件 ]

Act Locally の視点で。[ 小学校 1 件 ]

他との調整。[ 中学校 1 件 ]

多人数（200人以上）の生徒を相手にできると有効性が感じられる。[ 中学校 1 件 ]

工学的アプローチがあること。[ そのほか 1 件 ]

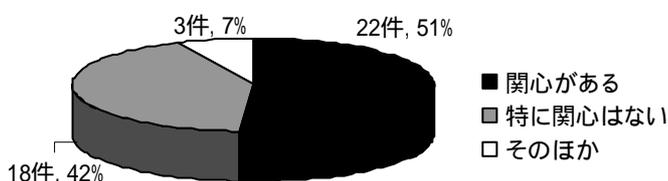


図 40 . 湿原を題材とする環境教育プログラムや教材の授業活用への関心（小学校 n=43）

表 19 . 湿原を題材とした教育活動の実施状況別 授業での活用への関心度（小学校）

	実施校	実施意向あり	実施意向なし	実施不明
関心がある	4	8	9	1
関心がない	6	1	11	
そのほか	1	1	1	

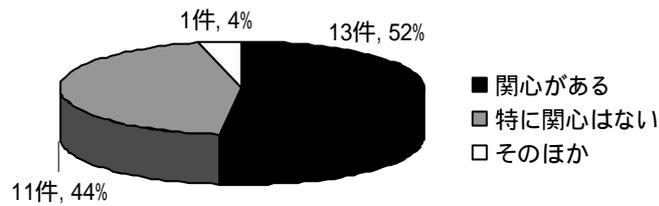


図 4 1 . 湿原を題材とする環境教育プログラムや教材の授業活用への関心 ( 中学校 n=25 )

表 2 0 . 湿原を題材とした教育活動の実施状況別 授業での活用への関心度 ( 中学校 )

	実施校	実施意向あり	実施意向なし
関心がある	6	4	3
関心がない	2	1	8
そのほか			1

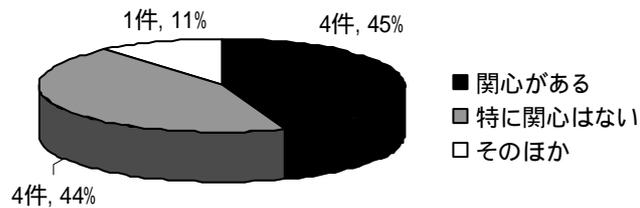


図 4 2 . 湿原を題材とする環境教育プログラムや教材の授業活用への関心 ( 高校・大学等 n=9 )

表 2 1 . 湿原を題材とした教育活動の実施状況別 授業での活用への関心度 ( 高校・大学等 )

	実施校	実施意向あり	実施意向なし
関心がある	3	1	
関心がない	2		2
そのほか	1		

4 - 4 湿原を題材とした環境教育の導入や推進について、ご意見があればお聞かせください。

回 答(様式自由)

問5へ

何か重要な今日的課題の取り組みにあたっては、子どもからスタートということは理解するが、それが何でも学校に向けられている。それぞれの役割をしっかりと果たした上に、連携すべきということをご理解いただきたい。

以前、霧中にいたが、保護者からは湿原教育に本評。湿原の動物をやっても意味ないと言われた！湿原が環境に及ぼす影響なども、もっと市民が感じられればと思います。

地域素材の釧路湿原を通して環境教育を進めることは効果的である。生徒の関心に応じて進める総合的な学習でグループ毎の選択学習が充実できればと思います。

関心がないという返答が多く、大変失礼であること申し訳なく思っております。本校においては設問に対する回答にもあるとおり、湿原への関心があまり強くない様子にあります。なかなか身近には捉えられないということから、上記のような回答になってしまっておりますが、この先関わりができたり、また、必要性が高まった際には、全て変わってくることもあるものとしてとらえて下さると幸いです。

環境教育も含め、取り組んだ方が良くと思う内容が数多くあり、十分な時間がかけられない。小1～中3まで各学年で少なくともこの程度はと思われる内容を提示していただくと、取り組みやすいのではないかと思います。(全くの個人的見解です)

現在、総合的な学習の時間での活動計画に基づき実施しているため、全員による環境教育の導入は難しいが、生徒の興味関心に応じて前向きに導入していきたい。

今、弟子屈町では町を挙げて各関係機関や学校等が連携して環境教育に取り組んでいます。そのため、子どもたちは地域の環境に関心を持ち、大切に守っていこうという意識が高まっています。関係機関等が連携して取り組んでいくことの大切さをあらためて強く実感しているところです。

「釧路湿原自然再生全体構想」についても、多くの人たちが参加・協力できる機会があり、強い連携体制のもので進められていくことを願っています。構想の対象となっている弟子屈町において、本校のこれまでの教育活動を生かしたり、見直したりしながら湿原にも目を向けた広い視野での環境教育に取り組んでいきたいと思えます。

授業ですぐに活用できる教材があれば参考にしたい。

本校における環境教育は、工学技術者教育につなげることを主眼としています。「工場などの人間活動が環境に負荷を与える」などの、負の視点からのアプローチでは、強い内発性を生まないと考えます。むしろ、工業技術は環境というテーマに対してどんなことができるのか、という前向きなヒントが得られるような内容にしたいと考えています。

そのためには、学外に出向くことはもちろんですが、前向きに取り組んでいる方々のエネルギーに触れることが最も重要だと思います。その場では、地域の環境の有様を紹介するのみならず、環境改善の現実問題を提示していただければ幸いです。

インターネット等での資料の提供があるとうれしい。

総合学習にからめて行うのが望ましいが、副教材費の拡大や外部からの講師探しが大変である。ボランティアを含めて、人材活用を図るための窓口を一本化していただくと、有り難い。

大切なことだとは思いますが、他にも行うべき課題が多くあり、手を広げることができない。  
身近に阿寒湖等、題材があるため、遠隔地である湿原についての学習に取り組む時間や移動手段  
等、課題が多すぎるため導入は無理である。

各学年の目標を明確にし、何をどこまで考えるのかはっきりさせたい。生涯学習の観点からみると、小・中学生は、まずは湿原の理解という段階であると思う。安易に「保全」か「開発」を議論したり「ゴミひろい」のみの活動は意味がない。湿原を含む自然を十分、体感させたいが、学校の場所によっては難しい。「水」「安全」など視点をしばって追求するののも一つの方法であろう。ひとこと「湿原」といっても奥が深く、学びがいはあるが、カリキュラム化するのは簡単とは言えない。

釧路市に住む子どもなので、湿原に触れ、体験させるプログラムに興味はありますが、現実には教職員の数や人手など難しい問題があります。

本校では、五感を使った環境教育を重視しています。湿原は地域的には身近なのですが、繰り返し行くことが難しいところに苦労しています。

講義レポートの課題や卒論への取組としてこれまでも多くの学生が様々なプログラムに参加している。面白かった、また参加してみたいという意見もあるが、花や鳥の名前ばかりを列挙されても…。説教臭い、道路を歩くことが本当に自然の鑑賞の仕方として良いことなのか、と厳しい感想もあって考えさせられる。親達は概ね無関心